

土木用



既製コンクリート杭の機械式継手
トリプル プレート ジョイント
T・P JOINT



北海道コンクリート工業株式会社

Hokkaido Concrete Industries Co., Ltd.

■ 本 社 札幌市中央区北2条西2丁目40番地 (札幌2・2ビル6F)
〒060-0002 TEL (011)241-1901 (代)
営業部直通 (011)222-1310
FAX (011)221-7314

■ 登別工場 登別市登別港町2丁目1番地1
〒059-0466 TEL (0143)83-1325 (代)
FAX (0143)83-2998

<https://www.hcic.co.jp/>



杭径等仕様の詳細については、当社にお問合せください。

※カタログの掲載内容及び仕様は、予告なく変更することがあります。 本内容・仕様は2025年3月現在のものです。



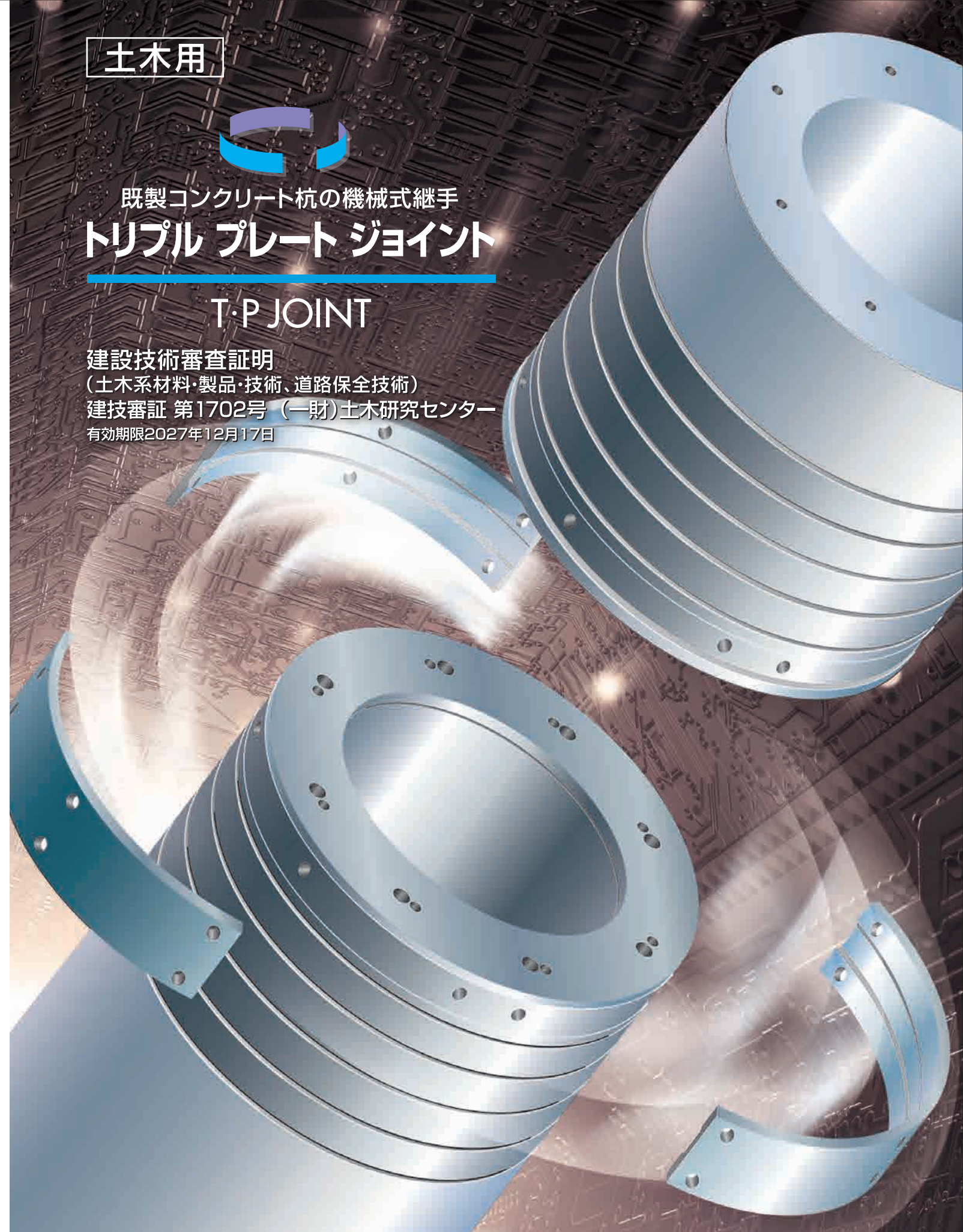
HC.25.3E50-b1

土木用



既製コンクリート杭の機械式継手
トリプル プレート ジョイント
T・P JOINT

建設技術審査証明
(土木系材料・製品・技術、道路保全技術)
建技審証 第1702号 (一財)土木研究センター
有効期限2027年12月17日



杭径等仕様の詳細については、当社にお問合せください。



北海道コンクリート工業株式会社

Hokkaido Concrete Industries Co., Ltd.

T・P JOINT が誇る、確実、強靱、簡便な 優れた機能

■ T・P JOINT の概要

T・P JOINT は、図-1のように、端板、側板、補強バンド、接続プレートおよび接続ボルトから構成されています。杭本体の継手金具は、端板、側板、補強バンドからなり、側板に接続プレートのボルト孔に対応したネジ穴が切られています。端板には、下杭に上杭を合わせた時に、接続プレートの形状に嵌合する凸形の突起が形成される形となっています。接続プレートは、端板の突起と嵌合する凹形となっており、側板のネジ穴に接続ボルトを取り付けることにより凹凸を嵌合し(図-2参照)、この嵌合部により杭に作用する応力を伝達します。尚、接続ボルトは、杭に引張力が作用した時の接続プレートの離脱防止の役目をしております。

■ T・P JOINT の特長

- 1 溶接継手と同等の性能を有している。
- 2 気象条件(風、雨、気温等)の影響を受けにくく、安定した施工ができる。
- 3 火気厳禁の場所でも安全に施工ができる。
- 4 溶接継手に比較して施工時間が短い。
- 5 接続プレートを3分割し、軽量化を図っているため、取扱いが容易である。
- 6 接続ボルトの締付けはトルクレンチを使用し、特殊な工具及び特殊な技能者を必要とせず、施工管理が容易である。
- 7 接続プレートの杭本体からの突き出しが小さいので杭周面摩擦係力への影響が少ない。
- 8 全ての部品は、工場製品を使用するので、品質の信頼性が高い。

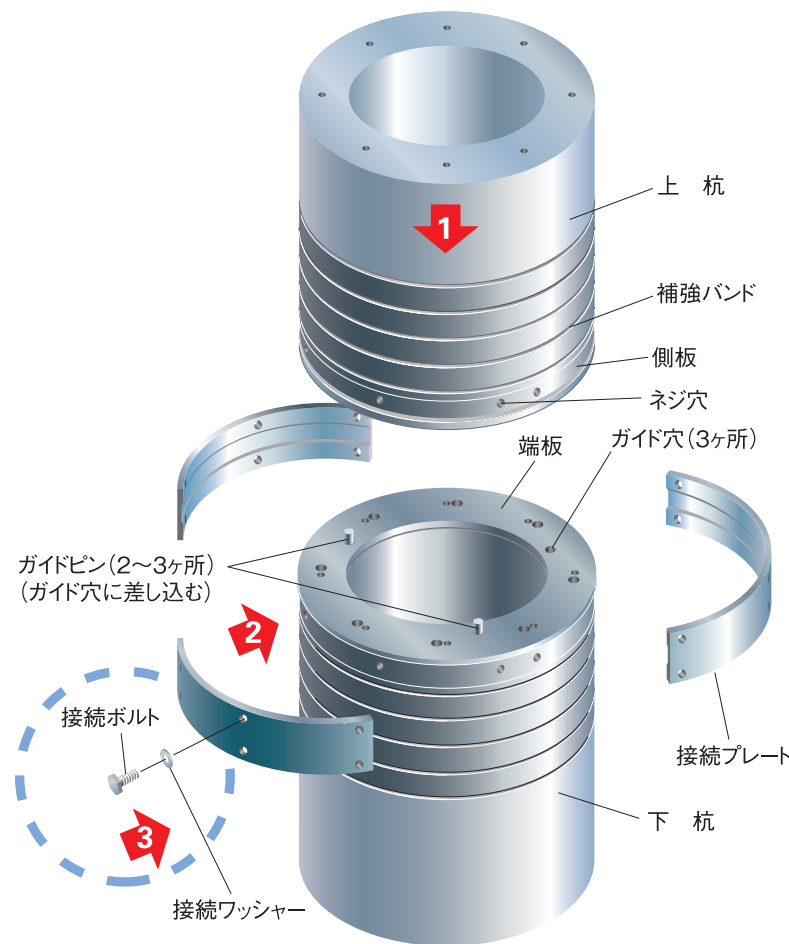


図-1

■ T・P JOINT の建設技術審査証明について

「T・P JOINT」は、土木分野での普及を目指し、一般財団法人土木研究センターの「建設技術審査証明」による審議を受け、2017年12月18日付で「建技審証 第1702号 (土木系材料・製品・技術、道路保全技術)」を取得し、2023年6月6日に内容変更・更新をいたしました。(有効期限2027年12月17日)

■ T・P JOINT の概要図

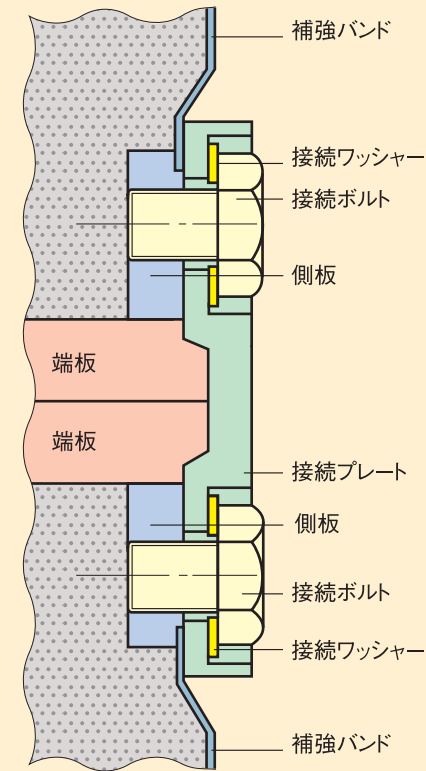


図-2

T・P JOINT は下杭と上杭により形成されたテーパ状の突起に、接続プレートのテーパ状の溝を接続ボルトで取り付けることにより嵌合し、杭を接続する形状になっています。

■ T・P JOINT の適用条件

適用範囲：建設技術審査証明 (土木系材料・製品・技術、道路保全技術)
建技審証 第1702号 (一財)土木研究センター
有効期限2027年12月17日

1 対象

杭種：既製コンクリート杭 (PHC杭^{※1}、SC杭)

杭径：300~1200mm

PHC杭+PHC杭の場合 300~1200mm

PHC杭+SC杭の場合 300~1200mm

SC杭+SC杭の場合 355.6~1200mm

SC杭+SC杭 (タイプS^{※2}) の場合 318.5~1000mm

コンクリートの設計基準強度：80N/mm² 以上

※1 PHC杭は、JIS A 5373 附属書Eの規格に適合するものとする。そのうち特に、『道路橋示方書・同解説 IV下部構造編』(平成29年11月、公益社団法人 日本道路協会) pp.304-306 に従って、 $\rho_s \sigma_y \geq 2.45$ (ρ_s : スパイラル鉄筋の体積比、 σ_y : スパイラル鉄筋の降伏点 (N/mm²)) となるようにスパイラル鉄筋を適切に配置し、十分なせん断耐力および変形能を確保したものをPHC杭 (JIS強化杭) と呼ぶ。

※2 タイプSは、SC杭+SC杭における継手の仕様を変更し、適用最大鋼管厚を厚くしたものである。ただし、タイプSの適用可能な会社は、(株)トーヨーアサノ、日本コンクリート工業(株)、日本ヒューム(株)、ジャパンパイル(株)、三谷セキサン(株)、児玉コンクリート工業(株)に限る。

2 適用工法

既製コンクリート杭のプレボーリング杭工法

ただし、杭頭には使用しないものとする。



建設技術審査証明事業 (土木系材料・製品・技術、道路保全技術)
建技審証 第1702号 (一財)土木研究センター
有効期限2027年12月17日

■ 施工準備

T・P JOINTの施工にあたって、下記の材料および機材、工具を準備します。

● 使用材料および機材

	名 称	数 量	仕様等の確認事項
1	接続プレート	3枚×継手数	対応杭径、継手TYPE
2	接続ボルト	杭径と継手TYPE による必要数	ねじの呼び、長さ、強度区分
3	接続ワッシャー	同上	呼び径、外径、厚さ
4	ガイドピン	2～3個×継手数	上・下杭位置合わせ用

● 使用工具等

	名 称	数 量	備 考
1	トルクレンチ	1～6丁	規定トルク締め付け用 JIS B 4652（手動式トルクツールの要求事項及び試験方法）によるプレセット形とする。
2	トルクレンチ用ソケット	各1～6個	M12用、M14用及びM16用
3	ラチェットレンチ	各1～3丁	仮締め用（M12用、M14及びM16用）
4	六角レンチ	各1～3丁	埋込ボルト取りはずし用
5	ワイヤーブラシ等	1～3個	杭端面、嵌合部及びねじの掃除用

■ 資格認定

継手研究会により、資格(施工管理技術者・施工技能者)を認定いたします。

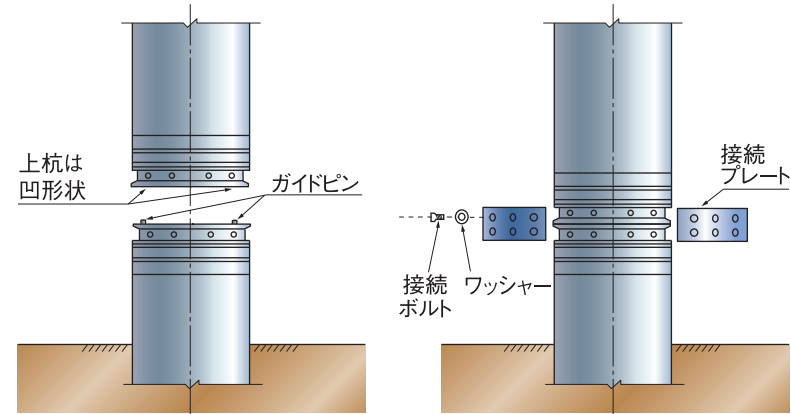
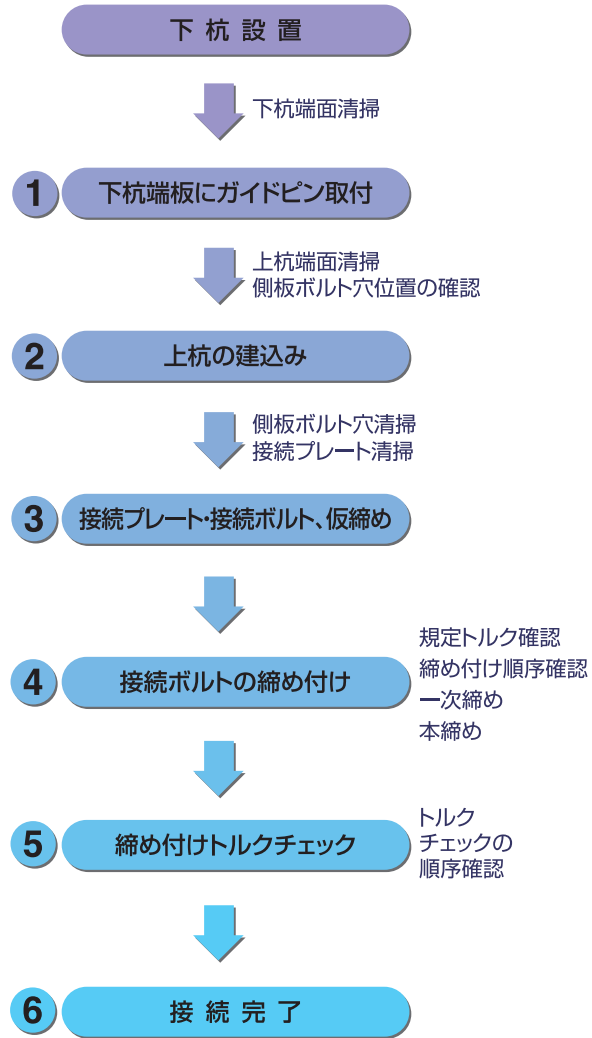


接続プレート・工具等

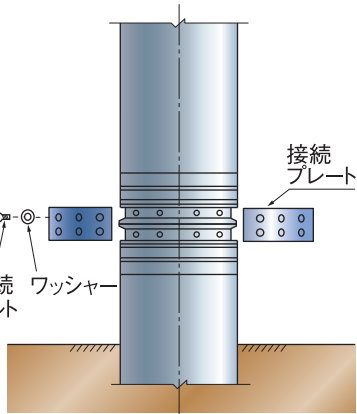


講習会状況・認定証明書

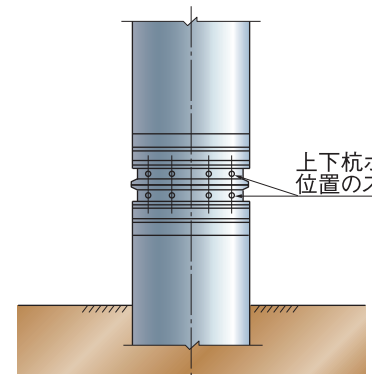
■ 施 工



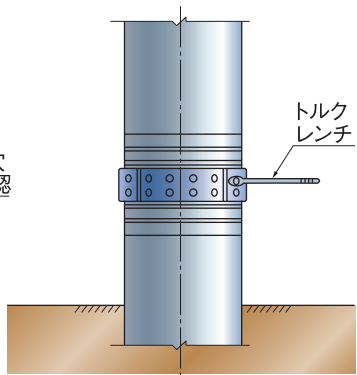
1 下杭端板に接続ボルト位置
合わせ用ガイドピン取付
(上杭端板は凹形状)



3 接続プレート取り付け、
接続ボルト仮締め



2 上杭を下杭に垂直に載せる
(ガイドピン(凹凸)を合わせ
ながら載せる)



4 トルクレンチにて接続ボルト
の締め付け

5 トルクレンチにて接続ボルト
の締め付けトルク確認

6 接続完了

● 一次締め完了



一次締め完了後、ボルト頭部からプレートにかけて
一本線でマーキングする。

● 本締め



本締め完了後、ボルト頭部とプレートのマーキング
のズレを確認する。

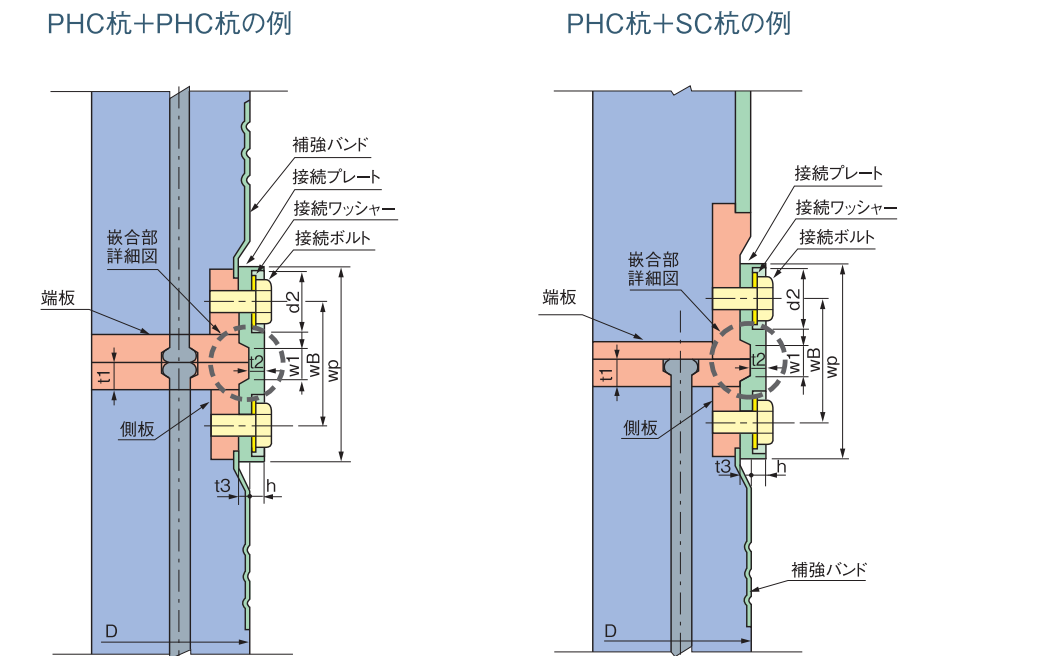
● 接続完了



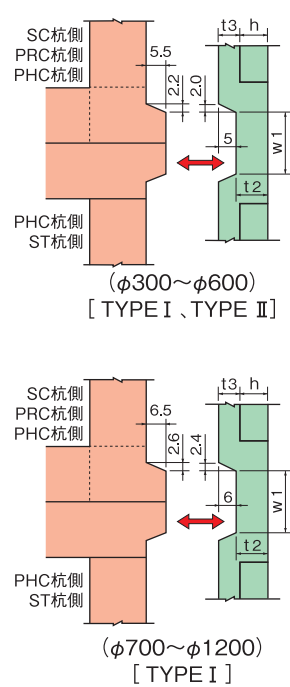
トルクチェック完了後、プレートにマーキングする。

標準構造図 [PHC杭仕様]

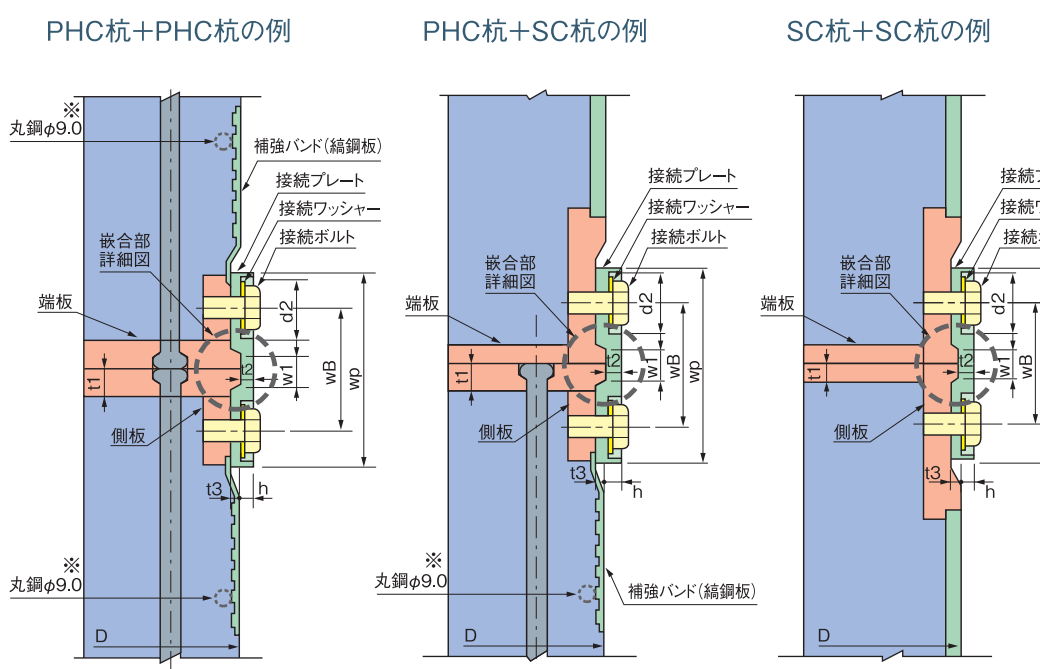
TYPE I



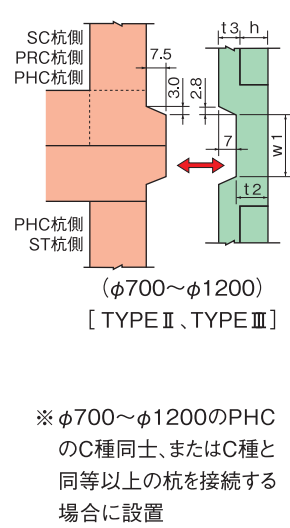
嵌合部詳細図



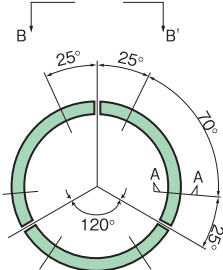
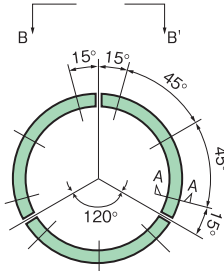
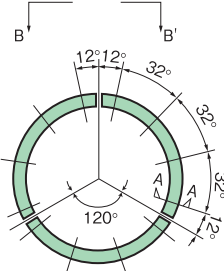
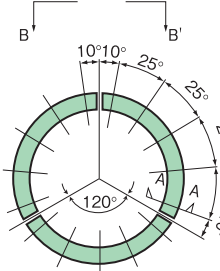
TYPE II / TYPE III

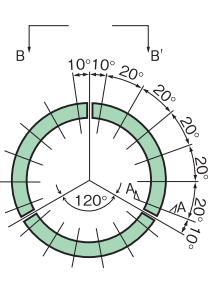
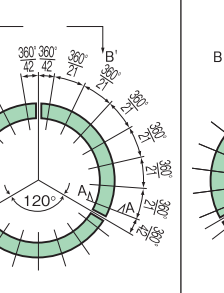
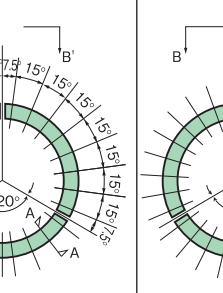
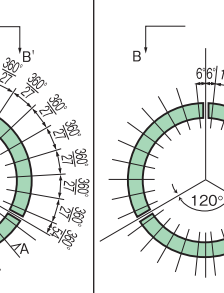


嵌合部詳細図



ボルト分割数

ボルト分割数		6	9	12	15
接続ボルト本数		12	18	24	30
接続プレート分割 及び ボルト配置角度					
杭 径	TYPEⅠ	φ300～φ500	φ600，φ700	φ800，φ900	φ1000
	TYPEⅡ	—	φ350～φ500	φ600，φ700	φ800，φ900
	TYPEⅢ	—	—	—	—

ボルト分割数		18	21	24	27	30
接続ボルト本数		36	42	48	54	60
接続プレート分割 及び ボルト配置角度						
杭 径	TYPEⅠ	φ1100	φ1200	—	—	—
	TYPEⅡ	φ1000	φ1100	φ1200	—	—
	TYPEⅢ	φ900	φ1000	—	φ1100	φ1200

建築用仕様と一部異なる部分がありますので、ご注意ください。

継手の仕様【PHC+PHC用、PHC+PHC（JIS強化杭）用、PHC+SC用】

杭径 D (mm)	杭種	継手種類 (呼び名) (TYPE)	側板材質	接続 プレート 材質	端板厚さ t1 (mm)	接続ボルト			接続プレート						接続 ボルト 間隔 wB (mm)
						呼び	本数 n (本)	長さ ℓ (mm)	嵌合部			座ぐり部			
									厚さ t2 (mm)	深さ H1 (mm)	幅 w1 (mm)	厚さ t3 (mm)	深さ h (mm)	径 d2 (mm)	
300 (318.5)	A , B , C	4049-I	400材	490材	12以上	M12	12	25	9	5	18	7	7	32	65
350 (355.6)	A	4040-I	400材	400材	12以上	M12	12	25	9	5	18	7	7	32	65
	B , C	4049-II	400材	490材	12以上	M12	18	25	9	5	18	7	7	32	65
400	A	4040-I	400材	400材	12以上	M12	12	25	9	5	18	7	7	32	65
	B , C	4049-II	400材	490材	12以上	M12	18	25	9	5	18	7	7	32	65
450	A	4040-I	400材	400材	12以上	M14	12	30	9	5	18	8	6	35	70
	B , C	4049-II	400材	490材	12以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
500	A	4040-I	400材	400材	12以上	M14	12	30	9	5	18	8	6	35	70
	B , C	4049-II	400材	490材	端以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
600	A	4040-I	400材	400材	14以上	M14	18	30	9	5	18	8	6	35	70
	B , C	4049-II	400材	490材	14以上	M14	24	30	12	5	26	8	9	35	70
700	A	4040-I	400材	400材	16以上	M14	18	30	10	6	28	8	8	35	70
	B	4049-II	400材	490材	16以上	M16	24	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4049-II R	400材	490材											
800	A	4040-I	400材	400材	16以上	M14	24	30	10	6	28	8	8	35	70
	B	4049-II	400材	490材	16以上	M16	30	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4049-II R	400材	490材											
900	A	4940-I	490材	400材	19以上	M14	24	30	10	6	28	8	8	35	70
	B	4040-II	400材	400材	19以上	M16	30	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4049-ⅢR	400材	490材	19以上	M16	36	35	15	7	32	11	11	40	90
1000	A	4040-I	400材	400材	19以上	M14	30	30	10	6	28	8	8	35	70
	B	4049-II	400材	490材	19以上	M16	36	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4049-ⅢR	400材	490材	19以上	M16	42	35	15	7	32	11	11	40	90
1100	A	4040-I	400材	400材	22以上	M14	36	30	10	6	28	8	8	35	70
	B	4049-II	400材	490材	22以上	M16	42	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4049Y-ⅢR	400材	490Y材	22以上	M16	54	35	15	7	32	11	11	40	90
1200	A	4040-I	400材	400材	22以上	M14	42	30	10	6	28	8	8	35	70
	B	4049-II	400材	490材	22以上	M16	48	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4049Y-ⅢR	400材	490Y材	22以上	M16	60	35	15	7	32	11	11	40	90

注1：耐力の異なる杭種を継ぐ場合、T・P JOINT の仕様は耐力の低い杭に合わせる。
注2：上表の「杭種」は耐力の低い方の杭種を示す。
注3：400材の側板および接続プレートは、材質を490材に替えることができる。
注4：接続プレートは腐食代1mmを考慮した寸法である。
注5：継手種類に「R」が付いているものは、補強バンドに丸鋼を設置することを示す。
注6：PHC+SCの場合、杭径300mmのPHC杭は杭径318.5mmのSC杭と、杭径350mmのPHC杭は杭径355.6mmのSC杭と接続する。

継手の仕様【PHC（JIS強化杭）+PHC（JIS強化杭）用、PHC（JIS強化杭）+SC用】

杭径 D (mm)	杭種	継手種類 （呼び名） TYPE	側板材質	接続 プレート 材質	端板厚さ t1 (mm)	接続ボルト			接続プレート						接続 ボルト 間隔 wB (mm)
						呼び	本数 n (本)	長さ ℓ (mm)	嵌合部			座ぐり部			
									厚さ t2 (mm)	深さ H1 (mm)	幅 w1 (mm)	厚さ t3 (mm)	深さ h (mm)	径 d2 (mm)	
300 (318.5)	A , B , C	4049-I	400材	490材	12以上	M12	12	25	9	5	18	7	7	32	65
350 (355.6)	A , B , C	4049-II	400材	490材	12以上	M12	18	25	9	5	18	7	7	32	65
400	A , B , C	4049-II	400材	490材	12以上	M12	18	25	9	5	18	7	7	32	65
450	A , B , C	4049-II	400材	490材	12以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
500	A , B , C	4049-II	400材	490材	12以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
600	A , B , C	4049-II	400材	490材	14以上	M14	24	30	12	5	26	8	9	35	70
700	A , B	4049-II	400材	490材	16以上	M16	24	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4049-II R	400材	490材											
800	A , B	4949-II	490材	490材	16以上	M16	30	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4949-II R	490材	490材											
900	A , B	4949-III	490材	490材	19以上	M16	36	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4949-III R	490材	490材											
1000	A , B	4949-III	490材	490材	19以上	M16	42	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4949-III R	490材	490材											
1100	A , B	4949Y-III	490材	490Y材	22以上	M16	54	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4949Y-III R	490材	490Y材											
1200	A , B	4949Y-III	490材	490Y材	22以上	M16	60	35	15	7	32	11	11	40	90
	C	4949Y-III R	490材	490Y材											

注1：耐力の異なる杭種を継ぐ場合、T・P JOINT の仕様は耐力の低い杭に合わせる。
注2：上表の「杭種」は耐力の低い方の杭種を示す。
注3：400材の側板および接続プレートは、材質を490材に替えることができる。
注4：接続プレートは腐食代1mmを考慮した寸法である。
注5：継手種類に「R」が付いているものは、補強バンドに丸鋼を設置することを示す。
注6：PHC（JIS強化杭）+SCの場合、杭径300mmのPHC杭（JIS強化杭）は杭径318.5mmのSC杭と、杭径350mmのPHC杭（JIS強化杭）は杭径355.6mmのSC杭と接続する。

継手の仕様【SC+SC用】

杭径 D (mm)	最大鋼管厚 (mm)		継手種類 （呼び名） TYPE）	側板材質	接続 プレート 材質	端板厚さ t1 (mm)	接続ボルト			接続プレート						接続 ボルト 間隔 wB (mm)
	400材	490材					呼び	本数 n (本)	長さ ℓ (mm)	嵌合部			座ぐり部			
										厚さ t2 (mm)	深さ H1 (mm)	幅 w1 (mm)	厚さ t3 (mm)	深さ h (mm)	径 d2 (mm)	
355.6	5.0	—	4949-II	490材	490材	12以上	M12	18	25	9	5	18	7	7	32	65
400	4.5	—	4949-II	490材	490材	9以上	M12	18	25	9	5	18	7	7	32	65
450	5.0	4.5	4949-II	490材	490材	9以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
500	5.0	—	4949-II	490材	490材	9以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
600	5.0	4.5	4949-II	490材	490材	9以上	M14	24	30	12	5	26	8	9	35	70
700	6.0	5.0	4949-II	490材	490材	9以上	M16	24	35	15	7	32	11	11	40	90
800	7.0	5.0	4949-II	490材	490材	9以上	M16	30	35	15	7	32	11	11	40	90
900	7.0	5.0	4949-Ⅲ	490材	490材	9以上	M16	36	35	15	7	32	11	11	40	90
1000	7.0	6.0	4949-Ⅲ	490材	490材	9以上	M16	42	35	15	7	32	11	11	40	90
1100	10.0	7.0	4949Y-Ⅲ	490材	490Y材	9以上	M16	54	35	15	7	32	11	11	40	90
1200	10.0	7.0	4949Y-Ⅲ	490材	490Y材	9以上	M16	60	35	15	7	32	11	11	40	90

注1：耐力の異なる杭種を継ぐ場合、T・P JOINT の仕様は耐力の低い杭に合わせる。
注2：上表の「最大鋼管厚」は耐力の低い方の杭の鋼管厚を示す。
注3：接続プレートは腐食代1mmを考慮した寸法である。

■ 継手の仕様【SC+SC用・タイプS】

杭径 D (mm)	最大鋼管厚 (mm)		継手種類 (呼び名) (TYPE)	側板材質	接続 プレート 材質	端板厚さ t1 (mm)	接続ボルト			接続プレート						接続 ボルト 間隔 wB (mm)
	400材	490材					呼び	本数 n (本)	長さ ℓ (mm)	嵌合部			座ぐり部			
										厚さ t2 (mm)	深さ H1 (mm)	幅 w1 (mm)	厚さ t3 (mm)	深さ h (mm)	径 d2 (mm)	
318.5	4.5	—	4949-S1	490材	490材	12以上	M14	12	30	12	5	26	8	9	35	70
	7.0	5.0	4949-S2	490材	490材	12以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
355.6	7.0	5.0	4949-S1	490材	490材	12以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
400	6.0	5.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M14	18	30	12	5	26	8	9	35	70
450	7.0	5.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M14	24	30	12	5	26	8	9	35	70
	9.0	6.0	4949-S2	490材	490材	9以上	M16	24	35	15	7	32	11	11	40	90
500	6.0	5.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M14	24	30	12	5	26	8	9	35	70
	8.0	6.0	4949-S2	490材	490材	9以上	M16	24	35	15	7	32	11	11	40	90
	9.0	6.0	4949-S3	490材	490材	9以上	M16	30	35	15	7	32	11	11	40	90
600	7.0	5.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M14	30	30	12	5	26	8	9	35	70
	9.0	6.0	4949-S2	490材	490材	9以上	M16	30	35	15	7	32	11	11	40	90
700	8.0	6.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M16	30	35	15	7	32	11	11	40	90
800	8.0	6.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M16	36	35	15	7	32	11	11	40	90
900	8.0	6.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M16	42	35	15	7	32	11	11	40	90
1000	8.0	6.0	4949-S1	490材	490材	9以上	M16	48	35	15	7	32	11	11	40	90

注1：耐力の異なる杭種を継ぐ場合、T・P JOINT の仕様は耐力の低い杭に合わせる。

注2：上表の「最大鋼管厚」は耐力の低い方の杭の鋼管厚を示す。

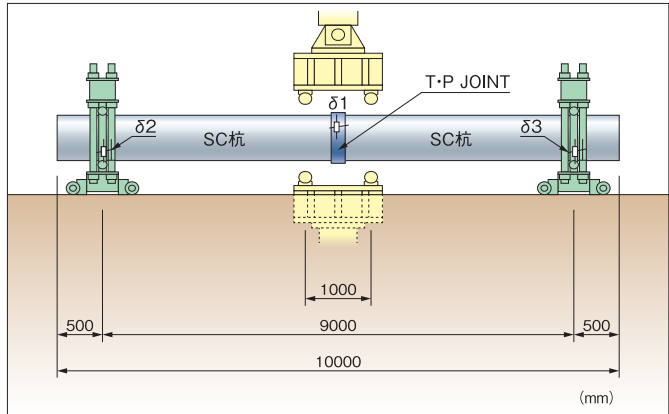
注3：接続プレートは腐食代1mmを考慮した寸法である。

■ 性能検証試験

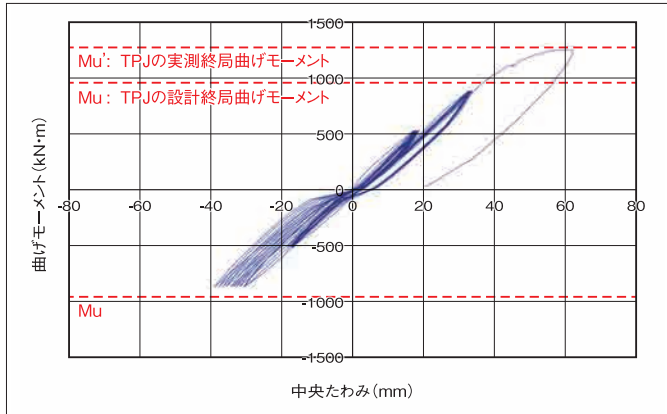
① 継手部の力学特性

実物を用いた曲げ試験、正負交番繰返し曲げ試験、せん断試験、軸引張試験の結果、T・P JOINT を用いた継手部は、杭本体と同等以上の曲げ耐力、せん断耐力、軸方向耐力を有すること。また、溶接による継手と同等の曲げ剛性を有することを確認しました。

● 正負交番繰返し曲げ試験方法



● 正負交番繰返し曲げ試験結果



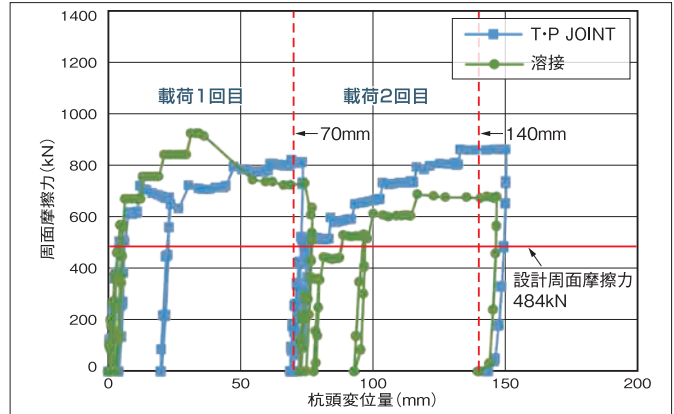
② 支持力への影響

プレボーリング杭工法で施工した杭で、鉛直載荷試験、水平載荷試験、および試験後の掘り出し調査の結果、T・P JOINT を用いた杭は、溶接による継手の杭と同様の挙動を呈することから、T・P JOINT を用いた継手部は杭の支持力に影響を与えないことを確認しました。

● 掘り出し調査（プレボーリング工法）



● 鉛直載荷試験結果



③ 施工性

施工試験の結果、T・P JOINT による継手部の接合作業は、溶接による接合に比べ短い時間で施工ができることを確認しました。

● 施工試験状況



注 意 事 項



〈ご注意とお願い〉

- T・P JOINT を用いて土木構造物の基礎を設計するにあたっては、本カタログを参考にするとともに、建築基準法や、関係法規、指針、基準等を遵守して、適正な設計をしていただきますようお願い申し上げます。
 - 施工要領や、管理基準については、詳しく記載しておりません。工事関係につきまちは、「T・P JOINT 施工要領書」をご覧くださいようお願い申し上げます。
 - 製品・工法の改良のため、または製品仕様、施工機械の仕様等は予告なく変更することがありますので予めご了承ください。
 - 地域により地盤、土質性状が異なり、各製品、工法での施工性能が均等に発揮できない場合があることをご了承ください。
 - 本カタログについての詳細は、当社まで直接お問合せください。
- ※本カタログ掲載の製品・工法に関して問題が発生した場合には、右記の免責事項をふまえた上で、当社にて対応させていただきますので、お願い申し上げます。



〈免責事項〉

- 本カタログに掲載された事項に反した設計、施工により問題が発生した場合。
- 基準仕様以外に使用者の指示した仕様、施工方法等により問題が発生した場合。
- 標準仕様以外に使用者から支給された材料、部品により問題が発生した場合。
- あらかじめ定めた用途、部位以外に使用し、それにより問題が発生した場合。
- 使用者もしくは第三者の故意、または過失により問題が発生した場合。
- 引渡し後、建物の構造、性能、仕様等の改変を行い、これにより問題が発生した場合。
- 瑕疵(カシ)を発見後、すみやかに届けがなされず、これにより問題が発生した場合。
- 構造物の変形、老朽化、外部からの衝突等、製品以外の外的要因により問題が発生した場合。
- 開発、製造、販売、施工時に通常予想される環境(温度、湿度、水位、地盤状況、その他)等の条件以外における使用に起因する問題が発生した場合。
- 設計時に想定された以上の不可抗力(天災、地震、地盤沈下、火災、爆発など)が原因となり問題が発生した場合。